

令和7年度 第21回 翔陽祭 講評

校長 博田

天候にも恵まれた翔陽祭。生徒の皆さん、指導にあたられた先生方、本当にお疲れ様でした。皆さん一人ひとりが、今年のテーマ「盛り上がり翔陽！ 燃やせ青春！」をもとに役割と責任を果たし、チームワークを発揮し、見事成功に導きました。一所懸命でした。表情が輝いていました。エネルギーが溢れていました。文化祭実行委員会の皆さんの「縁の下の力持ち」としての见えないところでの頑張りがあってこそ、翔陽祭が盛り上がりました。

3年次生にとっては、高校生活最後の文化祭であり、これまで以上に思いも一潮で、全力で取り組んでいました。本番当日までの準備過程では、決して順調に進むことばかりではなく、時として課題にぶつかり、苦勞する場面も多々あったことでしょう。しかしそのような時、生徒の皆さんは持ち前の協調性を十分に発揮し、お互いが知恵を出し合い、汗を流しながら一つひとつの壁を乗り越えていきました。皆さんは自分自身の持ち味を精一杯発揮し、企画・運営・準備、そして行事終了後の後片づけまで、立派にその役割を果たしました。

さて「学校行事」の意味とは何でしょう。皆さんが大人へと著しく成長していくこの多感な時期、一人ではできないこと、一人では味わえないことを、仲間とともに大きな壁に挑み、それを乗り越えるために思い悩む体験、そして仲間とともに協力して物事を成し得ていき、喜びを分かち合える良さが「学校行事」にはあると私は思います。ここで得た「自信」が、皆さんの今後への大きな成長の一步となることを心から願っています。

2日間の翔陽祭ですべての団体の会場を回りましたが、私が一番嬉しかったのは、会場に入った際に、皆さんがあふれる笑顔とあ

たかい言葉で迎えてくれたことです。2日間の翔陽祭において、来場者の皆さんはもちろん、校内の生徒たちや先生方を全力で迎えてくれた皆さんの笑顔と言葉に改めて感謝します。

さて、三大祭も終わり、3年次生はいよいよ進路実現という次のステージに向け、歩んでいかななくてはなりません。もし不安な気持ちが襲ってきたら、1・2年次生にも言えることですが、この翔陽祭で学んだ「自分自身を信じる心」を再度心に刻み、いい意味での自分自身との戦いにチャレンジしてほしいと思っています。

むすびにあたり、先生方をはじめ保護者の方々や地域の皆様に、あらためて心から感謝いたします。こうした方々の支えがあってこそ、生徒が頑張れたのだと改めて実感しています。

以上で私の講評を終わります。ありがとうございました。